

他力

「住職便り」



第30号（令和五年十一月）

専徳寺住職 弘中満雄

【知らずに使っていた日本語】

かつて中日新聞社の小出宣昭こいでのぶあきさんが、中国の温家宝おんかほう総理の歓迎晩餐会に出席した時の事です。

温家宝総理のスピーチに感動し、「素晴らしいですね」と同じテーブルの若い中国人（一等書記官）に言うと、

「それはそうでしょう。昔から中国はいろいろ日本に教えてあげました。漢字も教えてあげました。儒教も、仏教も教えてあげました。中国というのは、そのぐらい（言葉が）すすんでますから。」
少しカチンとした小出さんは、

「仰るとおりですが、でも明治になって、日本もたくさん中国へ教えたんですよ。」
「何でしょうか？」
「あなたの国の『中華人民共和国』の中国語は『中華』だけですよ。」
『人民』は中江兆民が英語の people を翻訳した日本語です。『共和国』は福沢諭吉が republic を翻訳した日本語です。あなたの国名の三分の二は日本語ですよ。」
「そんな事聞いた事ない！」
さらに追い打ちをかけた小出さん。



『共産党』も日本語です。『共産党幹部の指導のもと…』って言いますが、『幹部』も、『指導』も日本語です。あなた方の政府、毎日何回日本語使ってます？」
しーんとなったテーブル席。小出さん、言い過ぎたと反省したそうです。

【知らずに使っている仏教用語】

現代の中国人は自国の国名にかぎらず知らずに日本語を使っているようです。けれども私たち日本人はというと、知らずに多くの仏教用語を使っています。
「愛」、「挨拶」、「安心」、「有頂天」、「億劫」、「金輪際」、「観念」、「開巻」、「我慢」、「堪忍」、「愚痴」、「言語道断」、「自由」、「大丈夫」、「玄関」、「未曾有」、「四苦八苦」、「結集」、「祇園」……切りがありません。

日本人の誰もが日に一度は使う

「ありがとう」も、

元は「有り難し」（「めったにない」の意）で、語源は仏典だそうです。たとえば、



人間の身を受けることは難しい。
死すべき人々に寿命があるのも難しい。
正しい教えを聞くのも難しい。
もろもろのみ仏の出現したもうことも難しい。
（ダンマパダ182番）

今生、めったにない人間に生まれ、今、有り難くも生かされている私たちです。ですが老若関係なく、終わりがきます。その行く末を「自分勝手な思い込み」でなく正しい仏さまのみ教えをお聴聞して知りうるありがたさがあります。
今年も最後の法座となりました。
住職としてご門徒皆さまとお念仏し、阿弥陀さまに、ご本願に出遇う尊い時間を過ごしたく願っています。（おわり）